

いわき農林水産ニュース

平成31年2月号(第168号) 発行 2月28日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



免疫活性成分やビタミンB類、ビタミンD₂等が豊富な椎茸。いわきの菌床椎茸で風邪を吹き飛ばしましょう!

目次

- ・【特集】いわき梨輸出……………p.1
- 〔各種取組の実績(1~2月)〕……………p.4~
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー! p.10
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果…p.12
- ・林野火災にご注意!……………p.12
- ・イベント情報……………p.13
- ・いわきハタチ酒プロジェクト⑤……………p.13
- ・GAP コーナー……………p.14

【特集】いわき梨輸出

いわきから涼風。

熱気あるベトナムで「いわき梨」トップセールス!

■いわき梨をトップセールス

1月19日、20日にベトナムの最大都市・ホーチミンにあるイオンモール・タンフーセラドン店にて、ベトナムの旧正月商戦に合わせて、「サンシャインいわき梨」(「新高」)のプロモーション活動を行いました。

今回は、清水敏男いわき市長をはじめ、JA福島さくら大和田正幸いわき地区本部長、同草野富夫いわき梨部会長、当所家久来所長が出席し、関係機関・団体の長が一堂に会した、オールいわきによるトップセールスが実現しました。

店頭では、市長らが手渡して梨の試食販売を行い、現地の大勢のお客様にいわきの梨を味わってもらいました。時折、現地のベトナム人から日本語で「ありがとう」と言われることがあり、思わず嬉しくなっていました。



左から、草野梨部会長、清水市長、イオンベトナム(株) 妹尾 GM、大和田地区本部長、家久来所長



「新高」梨の陳列
1個約1,000円の高級品!



勢いよく梨をほおぼる少年
梨に無我夢中



手渡しすると、大人も子供も
丁寧に「ありがとう」



会場全体が大盛り上がり
(満員電車のような混み具合)



■「新高」梨の長期低温貯蔵

1月に店頭で梨のPRというと不思議に感じるでしょうが、今回輸出した梨については、JA福島さくらが市内の企業と協力して長期低温貯蔵を実現し、「新高」の鮮度をおよそ3カ月に渡って保つことに成功しました。

実際に、ベトナムの店頭にて、生産者が梨の品質を検証したところ、甘さ、シャリシャリとした食感など日本の店頭で食べるものと遜色がありませんでした。今後、この技術を活用すれば、流通に新たな道が開けそうです！



梨の長期低温貯蔵
(農商工連携の取組)



草野梨部会長による
品質確認

■現地視察

プロモーション活動の他に、①日本貿易振興機構(ジェトロ)ホーチミン事務所、②在ホーチミン日本国総領事館、③イオンベトナム(株)を表敬訪問し、現地の情報、農産物輸出入の状況、今後の展望など意見交換を行いました。

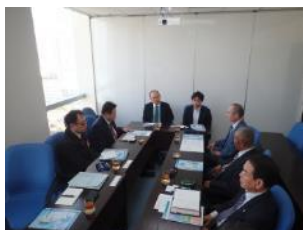
また、ホーチミン高島屋をはじめとしたデパートからローカルマーケットまで市場視察をして、農産物の販売状況を調査しました。デパートでは、福島県を含む日本の梨だけでなく、青森県や岩手県のりんごも販売されており、日本の農産物の進出を見て取ることができました。

今回の視察により、日本産の農産物は、現地で販売されている他国産(梨：韓国産、りんご：アメリカ産)に比べて高価格帯の商品であり、今後は高級品としてのブランド化が大きな課題だと認識しました。

ベトナムは発展途上国というイメージがありますが、デパートのあるショッピングモール内にはアイススケート場、ゲームセンター、一人カラオケ専用BOXなど充実したエンターテインメントがあり、その発展ぶりに驚くばかりでした。一方、道路はバイクがひしめきあい、通りを歩く人はみな若く、エネルギーに満ちあふれている国だとも感じました。



ローカルマーケットを視察



ジェトロ現地事務所では
今後の輸出戦略を検討



現地デパート
(日本と変わらない！)

(農業振興普及部)

ベトナムの紅い太陽、けふる風、新興する国の熱気を浴びた「いわき梨」。
さて、次はどこに向かうのでしょうか？

いわき梨輸出
＜番外編＞

家久来所長の ベトナム滞在記 Part1.

ベトナムの旧正月（テト）に合わせた「サンシャインいわき梨（新高）」のプロモーション活動等において、ホーチミン市に滞在した際に感じたことをお伝えいたします。

【カム・オン】

梨のプロモーションで試食用の梨を試食してもらう際に、手を伸ばしてくださったベトナムの方々からは、老若男女を問わず「ありがとう」の言葉を頂戴しました。買い物用のカートに乗っている小さな子供の場合、父親や母親などの周囲の家族が「『ありがとう』は？（『ありがとう』と言うんだよ。）」と促していたことがとても印象的でした。もちろん、大人たちも謝意を示してくださることが多く、こちらが日本人であることを理解し、日本語で「ありがとう」「ありがとうございます」と言われた時ははっとしました。日本のスーパーマーケットやデパ地下などで試食の際、「ありがとう」と言える子供、「『ありがとう』は？」と自分の子供に言える大人はどれくらい居るのだろうか…と。



「おいしい？」「『ありがとう』は？」

提供されることが当たり前と感じていた自分が恥ずかしくなりました。

さて、試食された方々の対応はというと、日本語で「ありがとう」と返すベトナム人、当方はベトナム語で「カム・オン（ありがとう）」と返し、ベトナムの方々のおいしい！の合図は「いいね！」ポーズ、昔で言う「ゲー」のポーズでした。

【プップー！】

想像どおりの交通事情、モーターサイクルが闊歩する街でした。オープンなマーケット内であれ、歩道であれ、モーターサイクルは走る、走る。たとえ歩行者が居ても、逆走であっても…。街中を占拠している様、あるいは歩道がモーターサイクルの駐車場と化している風景から、二十数年前のタイ・バンコクの情景を思い出しました。



マーケットの中ですよ！？

車用の駐車スペースは少なく、視察中、我々のバスは、あたりをうろうろしていたとのこと。待機所があるとは限らず、終了の時間を見計らい、ほどなくバスがやってきます。

基本、道路はモーターサイクルと車のもの。ホテル前にも横断歩道用信号機があるものの、横断者側が青信号（車道側が赤信号）でも、歩行者が横断していても、モーターサイクルも車も止まりません、スピードはさほど出はりませんが…。



左折中！！

四六時中、クラクションの音が止むことは有りませんが、「どけ！」や「おせい！」「あぶない！！」「注意しろ！！」といった日本で感じる不快な印象と異なり、「危ないよ」、「来ているよ」、「近づいているよ」、「気づいているよね」的なやさしい響きに感じられました。

実際、左折（日本とは逆の右側通行）する際や合流する際、とにかく曲がっていく、合流側に入らされるスタイルにもかかわらず、対向車や後続車はきちんと止まります。譲り合いの精神に感動しました。

※ 横断するときの心得…手を上げて勇気を持って一歩踏みだす。車両は減速してくれる…はず。

次号、マーケット事情や食事等について報告します。

（いわき農林事務所長 家久来克之）

第2回高校生レシピコンテスト 大成功を収める!!

〔1月27日(日)〕

当所主催による第2回高校生レシピコンテストの2次審査を、常磐共同ガス(株)ガスワンキッチンスタジオ「ステラ」(常磐湯本町)で開催しました。当コンテストは、いわきの農産品の魅力を若い世代に伝え、若いアイデアでさらなる魅力を発信することを目的に、「いわきならでは」のコンセプトのもと開催しております。第2回となる今回は、市内で年間を通して生産されているトマト、ネギ、きのこをテーマ食材とし、市内5校から32点の応募がありました。



(清水市長)



(調理審査の様子)



(作品への思いをPR!)

当日は、開会式では清水敏男いわき市長、JA福島さくらいわき地区本部 大和田正幸本部長、常磐共同ガス 猪狩謙二社長から激励をいただきました。また、福島テレビ「サタふく」の取材があり、参加した高校生にとってはこれ以上ない緊張感に包まれた中での開催でしたが、1次審査(書類審査)を通過した5組の高校生たちは、堂々と自信を持って調理・実食審査に臨み、各自のオリジナル料理を60分の制限時間内で手際よく調理・盛付けし、料理の特徴や工夫した点等を思い思いに心を込めて審査員へPRしていました。

厳正な審査の結果、グランプリに北郷麗奈さん(勿来高校3年)の「いわキッシュ」、準グランプリには緑川優水さんと林あいりさん(湯本高校1年)の「地元愛たっぷり♡イタリアンぎょうざ」が選ばれました。

北郷さんは前回(スイーツ部門)に続き、2年連続でのグランプリ受賞となり、さらに今回はJA福島さくら賞にも選ばれ、ダブル受賞という快挙を成し遂げました。

その他の結果は次のページをご覧ください。

グランプリ

JA
福島さくら
賞



「いわキッシュ」

北郷麗奈さん
(勿来高校3年)

準グランプリ



「地元愛たっぷり♡
イタリアンぎょうざ」

緑川優水さん、林あいりさん
(湯本高校1年)

マンマ
マリー
賞



「彩り米粉のケーキサレ」
カレー味、バジルトマト味

小澤萌さん、蛭田かすみさん、小野留奈さん
(勿来高校 2年)

ワンダー
ファーム
賞



「変わり種春巻き」

小野彩奈さん
(磐城第一高校 1年)

いわき
FCパーク
賞



「しいたけのおからづめ」

大内亜美さん
(いわき光洋高校 3年)

表彰式後の審査員講評では、「本当に接戦で点数を点けるのに悩んだ」、「どれもおいしく、心がこもっていた」、「甲乙つけ難い中で、順位を付けなければならず、本当に難しかった」など、審査員の方々が口々に僅差の勝負であったことを話されていました。そして、審査員長の株式会社マルベリィ 桑名基勝代表取締役社長からは、「地元の高校生が地元の食材を使って料理の腕を競うというこのような催しは、地元生産者の皆さんにとっても大変嬉しいこと」と、本コンテストが大変有意義であった旨のお話をいただきました。

なお、今回の優秀作品はレシピ集として取りまとめ、広く発信する予定です。高校生の若いアイデアが、いわき産農林産物の魅力をさらに引き出す一助となることを期待します。(企画部)



審査員の皆さん

- 株式会社マルベリィ
代表取締役社長 桑名 基勝 氏 (審査員長)
- 株式会社ワンダーファーム
代表取締役 元木 寛 氏 (審査員)
- いわきFCパーク
館長 鈴木 直樹 氏 (審査員)
- RED&BLUE CAFE
店長 山崎 敦史 氏 (審査員)

受賞作品を市内の飲食店で販売していただきました!

受賞した5作品は2月15日から24日の10日間、「実食キャンペーン」として市内の飲食店5店舗にて実際にメニューとして販売されました。期間中はどのお店でも大変好評で、中には早速リピーターが現れるほどの盛況ぶりでした。提供店舗、提供メニューは次のとおりです。

店 舗	提供メニュー
マンママリー イオンモールいわき小名浜店	地元愛たっぷり♡イタリアンぎょうざ
ワンダーファーム 「森のキッチン」	いわキッシュ
いわきFCパーク 「RED&BLUE CAFE」	いわキッシュ、しいたけのおからづめ
中華料理 華正樓	地元愛たっぷり♡イタリアンぎょうざ
創作麺 やま鳶	いわキッシュ、変わり種春巻き、 彩り米粉のケーキサレ

いわきFCパーク「RED&BLUE CAFE」では、期間を延長し、**3/19 (火) まで実施中**です!この機会にぜひご賞味あれ!!



新規栽培セミナー「いちご・ねぎ」

〔1月21日(月)〕

いわき地方の農業関係機関・団体で構成する「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議」の主催により、JA福島さくら夏井支店及び現地ほ場において、新規栽培希望者や定年帰農者等を対象に、いちご・ねぎの新規栽培セミナーが開催されました。



(いちごハウス視察)



(ねぎの収穫視察)

まず、JA、生産部会、いわき市等の職員による生産販売状況や栽培技術、補助事業等の支援制度についての座学を行った後、現地ほ場での収穫、出荷調製作業等の視察を行い、生産から販売までの流れの理解を深める内容でした。

アンケートでは、参加者から「栽培の理解が深まり生産を希望したい」との感想も聞かれました。

今後は、栽培を希望した参加者に対し、JAが窓口となり関係機関・団体が連携し、生産開始までの支援をしてまいります。

(農業振興普及部)

農村整備環境技術検討会にて市内2地区の計画内容を検討

〔2月14日(木)〕

福島市土地改良会館において、「平成30年度第3回農村整備環境技術検討会」が開催されました。当検討会は、ほ場整備等の農業農村整備事業を実施するにあたり、自然環境保全の観点で動植物に配慮した対策や工法について6名の委員の方々に助言を受けるもので、当管内では今回、ほ場整備を計画している2地区(山田地区、神谷地区)の計画内容を検討していただきました。



(検討会の様子)

両地区においては、ドジョウ、タニシ等の生息が確認されていることから、これら生きものに配慮するため、環境配慮型の石積み護岸やワンド*の設置を計画していることを説明し、「生きものが休息できるワンドは良い。」等の意見をいただきました。今後、新規事業として着工が決定した際には、これらの環境に配慮した施設を設置します。 ※ワンドとは、入り江や水の流れの淀み等をいう。

(農村整備部)

平成30年度多面的機能支払交付金いわき方部研修会

〔2月15日(金)〕

いわき市文化センター大ホールにおいて、多面的機能支払交付金に取り組む活動組織構成員、土地改良区職員等約150名を対象とした「平成30年度いわき方部研修会」を開催しました。

研修会では、現在活動組織が行っている地域の共同活動に係る支援のため、新たに始まる支援内容や拡充内容・事務簡素化等の「平成31年度改正のポイント」の説明や、磐城小川江筋の水路改修工事に取り組んでいる「安全な維持管理作業を目指した水路整備」の事例紹介を行いました。また、活動組織構成員間で活発な意見交換が行われました。



(研修会の様子)

(農村整備部)

第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン [2月2日(土)]

消費者へ県産農産物の安全性やおいしさを PR するため、FGAP 認証「ふくはる香」の試食を(株)ヨークベニマル新谷川瀬店で実施し、アンケート協力者には JGAP 認証「ミニトマト・レタス」をプレゼントしました。

試食いただいた方からは「甘くておいしい」といった声が聞かれ、お買い求めいただくお客様が多くいらっしゃいました。

アンケート調査の結果、農林水産物の購入意欲に関して「福島県産農林水産物を購入したい」が全体の約96%を占め、GAPの認知度については「知っている」が約43%でした。



「サンシャインガイドいわき」によるふくはる香のPR・試食の様子

(企画部)

芳賀正道さんが福島県農村青年会議で発表し、優秀賞を受賞！ [1月21日(月)]

郡山市の農業総合センターで、県内各地の若手農業者が取組や意見を述べる「福島県農村青年会議」が開催され、いわき農業青年クラブ連絡協議会に所属する芳賀正道さん(田人町)がいわき地区の代表者として発表を行いました。

芳賀さんは、就農のいきさつや、今年度から耕作放棄地を活用し、ワイン用ブドウ栽培に取り組むこと、将来は地ワインをつくり地域に貢献したいという熱い想いを発表しました。

発表の結果、優秀賞(農業振興公社理事長賞)に輝き、今年9月に青森県で開催される東北大会で県の代表として発表することになりました。芳賀さんは、「東北大会でも上位に輝けるよう、発表内容に磨きをかけていきたい」と今後の抱負を語っていました。



(優秀賞を受賞された芳賀さん)

(農業振興普及部)

瀬戸地区における花き講習会

[1月25日(金)]

瀬戸公民館において、切り花の栽培講習会が瀬戸地区営農改善組合の主催により開催され、当所職員が講師として出席しました。これは、基盤整備の話合いをきっかけに園芸品目の導入機運が高まった市内南部の瀬戸地区からの要請によるものです。この地区には地元の農業者が運営する直売所も開設したばかりで、そこの盆・彼岸向けの販売品目に切り花を目玉とする狙いがあります。

今回は、盆向け露地栽培可能なキク・アスター、春彼岸向けに施設無加温栽培可能なストックの3品目について栽培方法を紹介しました。25名の参加者は、初めて花の栽培をする方が多く、熱心に話を聞いていました。初めて聞く用語に難しいとの反応が強く感じられましたが、後日、「みんなでアスター栽培から始めてみます」と代表から連絡を頂きました。



(講習会の様子)

今後、瀬戸地区にて綺麗なアスターが沢山販売されるよう、支援を継続してまいります。

(農業振興普及部)

木とのふれあい創出事業 出前講座

〔1月29日(火)〕

渡辺小学校において、3、4年生を対象とした木とのふれあい創出事業出前講座を実施しました。

この事業は、当所が森林環境税を財源として、自然素材の木材を使った物作りを通じ、小中学生に森林や木材に対する理解を深めてもらうことを目的として実施しているものです。

当日は田人林業研究会のみなさんを講師にお迎えして、正しい釘の打ち方や安全なのこぎりの使い方を指導していただきました。生徒のみなさんは、普段は慣れない作業を楽しみながら、木の温もりや木材を使う大切さを学んでいました。



(講座の様子)

(森林林業部)

いわき地域産業6次化ネットワーク交流会

〔2月21日(木)〕

県いわき合同庁舎において、「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催しました。市内の事業者や関係者約30名が参加し、商品のブランディングに関する講演会及び個別相談会、6次化支援員による事業者マッチング相談会、市保健所と当所による食品表示研修会を実施しました。

講演会では、株式会社GNS常務取締役の廣田拓也氏に、「モノ(商品)づくりからコト(価値)づくりへ」と題して、商品の付加価値の付け方や地域産業6次化の秘訣についての講演をしていただき、その後、個別相談を希望した事業者にブランディングに関するアドバイスなどをしていただきました。事業者マッチング相談会では、中小企業団体中央会の箱崎美香氏を招き、農林漁業者と食品加工業者とのマッチングを支援していただきました。



(廣田氏による基調講演)

講演会のアンケートでは、参加者から「出口を見据えて商品を作ることの大切さを学んだ」、「成功の秘訣は『販路』であることを知った」等の声があり、好評のうちに終了しました。(企画部)

トピック1

サヨリ漁が始まりました

〔1月28日(月)〕

1月末にいわき市漁協沼之内魚市場でサヨリの初水揚げがありました。サヨリはサンマとよく似た細長い魚体ですが、下あごが針のように突き出しているのが特徴で、透き通るような白身は、さし身や寿司ネタに重宝される高級魚です。サヨリ漁は、2隻の漁船がチームを組み、並走して1つの網を曳く「2そう曳き」と呼ばれる漁法で行われ、いわき地区では平成27年以降の着業となります。

初漁となったこの日は、全長25cm前後のものが主体の水揚げでした。魚体が35cmを超える大型のものは特に「カンヌキ(=門：門や扉を閉める横木)」と呼ばれ、高値で取引されます。この日はカンヌキが4、5尾の水揚げだったようです。漁業者によると「水温が低下していくとカンヌキも多く水揚げされるだろう」とのことです。サヨリ漁は春先まで続く見込みです。



(沼之内魚市場に並ぶサヨリ)

(水産事務所)

「いわき市農林業賞表彰式」及び「いわき伝統野菜フォーラム」を開催〔2月1日(金)〕

内郷のクレールコートにおいて、いわき市主催による平成30年度いわき市農林業賞の表彰式が開催されました。この賞は、いわき市の農林業の発展や農村社会の近代化に意欲的に取り組み、顕著な業績を上げている方を表彰するものであり、今年で42回目となります。

今回は、個人・団体の部に、豊田 新一氏（森林・林業の現場に40年間以上携わり林業の振興に貢献、「森の名手・名人」にも選定される）、福島さくら農業協同組合いわきいちご部会

（「いわきいちご」のブランド化を推進、同部会内の高設栽培研究会がFGAP認証を受ける）。青年の部に、草野 城太郎氏（市内で唯一、葉ねぎの水耕栽培を行い、

青年農業者の手本となり指導農業士としても活躍）が表彰されました。

また、表彰式の後には、「いわき伝統野菜フォーラム2019」が開催され、長崎で伝統野菜の種採り農家として活躍する岩崎 政利氏の基調講演のほか、市内の小学校において伝統野菜の栽培に取り組む事例発表などが行われました。

参加者は、古くから伝わる伝統野菜を将来に受け継いでいくための取組みを学ぶとともに、試食を通じて伝統野菜の美味しさに触れ、伝統野菜の加工・保存技術などの食文化についても理解を深めました。

今後、受賞された皆様のますますの活躍とともに、いわき伝統野菜の継承に向けた更なる取組みが期待されます。（企画部）



（受賞者の皆様）



（試食提供された料理の一例）

いわき市漁協女性部による地魚料理のふるまい

〔2月10日(日)〕

いわき市漁業協同組合の主催による、薄磯地区の住民を対象とした地魚料理のふるまいが行われました。

調理は前日の準備も含め、沼之内支所女性部の6名が担当しました。ふるまいには、近隣の地元住民約70名が訪れ、ヒラメの唐揚げとサンマのつみれ汁、ホッキ飯の三品に舌鼓を打ちました。メイン食材のヒラメ、ホッキは、昨年2月にマリン・エコラ

ベル・ジャパン（MEL）による水産エコラベルを取得した魚種で、これらの紹介を通じて水産資源や環境に配慮した本県漁業者の取組も併せてPRしました。

当日は時折雪がちらつき、マラソン大会が中止になるほどの天気で、人が集まるか不安でしたが、思った以上の集客で、地元の魚介類を活用した地域住民の交流促進という目的を達成出来ました。（水産事務所）



（サンマつみれ汁の調理の様子）



（ふるまいに舌鼓を打つ方々）

頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.13

梨づくりの難しさを痛感しながら、日々精進しています。

根本果樹園 ねもとたいが 根本大我さん

前回取材にご協力いただいた下山田さんから紹介のあった、市内平の梨農家で平成29年からベトナム輸出用梨の栽培にも取り組んでいる、根本大我さんにインタビューしました！

代々続く梨農家の期待の後継者

根本さん：私たちの果樹園では、約70aのほ場で、幸水、豊水、新高、涼豊、南水、あきづき、二十世紀など多岐にわたる品種の日本梨を栽培しています。私はまだ就農して4年目ですが、100年以上続くこの果樹園を引き継ぐため、経営者である祖父の厳しい指導のもと、日々梨栽培の勉強に励んでいます。



インタビューにご協力いただいた
根本 大我 さん(30)

初めての梨づくりに奮闘中

根本さん：初めは果樹園を継ぐ気持ちはなく、8年間ほどファッション業界に勤めていましたが、祖母からの強い希望と、歴史ある梨農家の長男としての使命感が相まって、平成27年8月に就農の道を選びました。初めてのことでばかりで、困難な壁にぶつかることも多々ありますが、苦労がある分、育てた梨を食べてくれた人から「おいしい」の一言をいただく時の喜びは格別です。



今の時期(11月~3月上旬)は、次の収穫に向けた剪定作業を行います。

苦労したことの例を挙げるとすれば、様々な品種の梨の木を、見た目だけで判別しなければならないことでしょうか。就農4年目になった今、やっと果実だけでなく花で判別できるようになってきましたが、私の祖父は、木肌や花芽を見ただけで判別することができます。まだまだ精進しなければ、と身の引き締まる思いです。

後継者ならではの視点で、さらなるレベルアップを目指す

根本さん：そのような経験を通して思うことは、農業の現場には、新規参入者でも比較的容易に作業ができるような仕組みが必要なのではないか、ということです。祖父のような技術は何十年もの経験の中で習得されたものであり、当然、すぐに真似をできるものではありません。農家の後継者不足が深刻となる中、そのような技術を持たない初心者でも農業を始めやすいような、作業が少しでも効率的になるような仕組みをつくるのが現在の目標です。例えば、最近では「ジョイント栽培」(右側参照)に関心を持っています。作業の省力化・効率化が実現するので、私のような農業初心者でも、スムーズに作業を進めることができるのではないかと思います。

「ジョイント栽培」とは？

一本ずつ生えている木を直線状に連結させる、神奈川県が開発した栽培技術です。短い期間(約4年間)でほ場が最良の状態となる“早期成園化”のほか、作業移動が直線的になるため大幅な省力化が期待でき、一定の面積で通常より多く収穫できるというメリットもあります。

根本さん：さらに、平成29年からいわき市産梨のベトナム輸出が始まり、今年1月にはベトナムの旧正月に合わせて新高を輸出したところです。私も梨生産者の一人として平成29年、30年と2年連続でベトナムへ飛び、店頭プロモーションを行いました。海外へ梨を輸出することはもちろん、実際に現地の方と対面し、試食提供や販売を行うことは非常に貴重な体験でした。今後も、様々な機会を捉えて、さらなる海外進出を目指したいと思います！



ベトナムでのプロモーションの様子(平成29年11月)
根本さん(左端)と関係者の皆様

根本果樹園

所在地：いわき市平上平窪字牛淵 155 TEL/FAX：0246-23-8630



トピック2

川前地区におけるりんどうの普及指導活動発表が「福島県農業普及指導活動成果発表会」において第2位を獲得しました [1月16日(水)]



福島県農業総合センターで開催された「福島県農業普及指導活動成果発表会」にて、“「咲け！」あらたに芽吹いたりんどう産地開花への道のり”と題して、いわき市川前地区におけるりんどうの産地の育成活動を農業振興普及部の佐藤技師が発表しました。この成果発表会は、各農林事務所の普及指導活動内容を発表し、今後の普及手法に活かすことを目的として毎年開催されているものです。

当所では、以前から本ニュースでも紹介している「川前リンドウ生産部会」を対象にした支援体制・技術指導の手法・販売対策への取組・人材育成への取組について発表しました。特徴的な取組として、作業内容の確認の効率化と作業の自主性を図るための管理作業確認シートの活用と、出荷前調製の資料による明確化等を紹介しました。



(りんどう栽培指導会の様子)

発表会では順位づけがあり、当所の佐藤は第2位を獲得しました。多くの方から川前リンドウ生産部会への関心を得ることができ、産地のPRに繋がったと思います。

今後もさらなるりんどう産地発展に向けて、農林事務所及び関係機関・団体と一丸となって一層尽力してまいります。

(農業振興普及部)



(発表の様子)

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成31年1月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成31年1月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した6品目18検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。 （企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ（施設）6、菌床なめこ（施設）1、エリンギ（施設）1、菌床うすひらたけ（施設）1、牛肉 5、原乳 4
--

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（1月末日現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）は該当生産者6名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成31年1月の水産物モニタリング検査では、464検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成31年1月には99.8%となっています。2月18日現在の出荷制限等指示魚種は表の8種類になっています。

（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ヒノスガイ
クロダイ	コモンカスベ	

平成31年2月18日現在

林野火災にご注意！

平成31年の1月に入ってから、いわき管内で数件の林野火災が発生しています。空気が乾燥するこの時期は火災が発生しやすく、強風時には大面積に広がる恐れがあります。

ひとたび林野火災が起きれば貴重な財産が失われ、失火の場合は森林法において森林の延焼に対する罰則規定があります。

林野火災の原因別件数のうち人為的な要因が6割以上を占めていることから、山では「火を使わない」ことを心がけて、火事を起こさないよう十分注意して下さい。（森林林業部）

「忘れない 豊かな森と 火の怖さ」

※平成31年全国山火事予防運動統一標語



イベント情報

「ふくしま・いわき盛りだくさんフェスタ in ミデッテ」

- 日 時：平成31年3月 8日(金) 11:00~20:00
3月 9日(土) 11:00~18:00
3月10日(日) 11:00~18:00

■会 場：日本橋ふくしま館 MIDETTE (ミデッテ)
(東京都中央区日本橋室町4丁目3番地16 柳屋太洋ビル1階)

■主 催：福島県いわき地方振興局

平成31年3月8日(金)から10日(日)の3日間、福島県いわき市の魅力盛りだくさんの観光物産展を開催します。

当日は、福島県いわき市の特産品販売や観光PR、いわきの地酒・ワイン飲み比べセットの販売、いわき市の復旧・復興の“今”を知ってもらう展示、さらにはご当地キャラも登場する、まさに盛りだくさんなイベントです♪



「いわきハタチ酒プロジェクト」酒造り体験!



第5報 ~二十歳の年の、米作りから酒造り体験~

2月2日(土)と16日(土)の両日、いわき市内の酒販店有志が実施している「いわきハタチ酒実行委員会」は、この企画に参加した二十歳前後の若い人達15名と共に、9月に収穫した酒米・夢の香を使った日本酒の酒造り体験を行いました。1月中旬から市内の太平洋酒造で仕込みが始まった日本酒造りは、1月末に仕込み作業が完了し、2日(土)は蔵見学を兼ねて、参加者全員で「權入れ(発酵を促進するための作業)」を体験しました。静かな蔵の中、タンク内の「もろみ」は「ブツブツツ」と元気一杯に発酵していました。2週間後の16日は、待ちに待った上槽(もろみから酒を搾る作業)と試飲を行いました。前日から槽搾りが始まっており、貯蔵タンクには搾ったばかりの純米無濾過生原酒(←知らない人には呪文みたい?)がたっぷり。この日は、このタンクから四合瓶への瓶詰め作業を体験し、その後、既にお酒が飲める年齢になった参加者は、一足早く新酒を味わいました。



(權入れ作業の様子)



「試飲で乾杯!」

試飲した参加者からは口々に「美味しい!」との感想をいただき、実行委員の酒屋さん達も予想を上回る出来に感動していました。

実行委員会は3月上旬に新酒の「お披露目会」を企画しており、その後、実行委員会の酒屋各店で一般販売を開始する予定です。販売まであと数日!実行委員会は、一般の皆さんに味わっていただく日が非常に楽しみです。

これまでの活動・今後の予定はハタチ酒のfacebookをご覧ください。
(農業振興普及部・農村整備部)

facebook : <https://www.facebook.com/iwaki20sake/>

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

認証 GAP 研修会（関係法令研修）を実施しました！

〔1月22日（火）〕

JA福島さくらいわき地区本部で農業に關係する法律について学ぶ研修会を実施しました。今回は、「不当景品及び景品表示法」「計量法」「農薬取締法」「消防法」の4つの法律の研修で、農業者・関係団体26名が参加しました。

「不当景品及び景品表示法」はいわき地方振興局県民部の吉荒梨花氏、「計量法」はいわき市計量検査所の駒木根通夫氏、「農薬取締法」は当所の穴澤技師、「消防法」はいわき市平消防署の地引重雄氏から法律の概要とGAPとの関連性について説明を頂きました。

参加者アンケートには、各法律に関する質問も多く、関心が高いことがうかがえます。また、他の法律の研修要望もありました。

いわき農林事務所では、今後もGAP推進と併せて関係法令への情報提供を続け、より安全な農産物を提供できるように推進してまいります。
(農業振興普及部)



(研修会の様子)



編集後記

今月はいわき梨のベトナム輸出特集！季節外れに思えるかもしれませんが、贈答品の需要が高まるベトナムの旧正月「テト」に合わせた輸出戦略です。当所からも、所長を含め2名の職員が現地プロモーションに参加しましたが、人であふれるイオン店内の写真（p.1 右下）からも分かるとおり、「新興国」らしいベトナムの熱気が存分に感じられたとのことでした。

また、リレーインタビューでは、いわき梨生産者の一人で、若手農業者の根本さんから、さらなる海外進出を目指したいという意欲に満ちたお話を聞くことができました。これからますます期待が高まるいわき梨、今後の動きに注目です！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース